

## ウクライナの平和主義者運動の紹介

豊島耕一, 2023/06/09

現在の日本の軍拡への動きと、それを容認してしまいそうな世論、空気の背景には、いうまでもなくロシアによるウクライナ侵攻があり、それに軍事で備えるのは当然という考えがあると思います。そしてもちろん「台湾有事」への恐れも。

しかしウクライナの国内にも、武力によらず非暴力による抵抗を試みている勢力があり、この事実がほとんど知られていないのは大きな問題だと思います。昨年、原水禁世界大会（原水協）にゲストとしてリモート講演をした、ユリイ・シェリアジェンコ氏率いる「ウクライナ平和主義者運動」がそれです。

シェリアジェンコ氏のその後のインタビュー記事を"COUNTER PUNCH"というネットメディアに見つけ、DeepLに頼りながら翻訳しました。同メディアの許可を得てブログに全文を掲載しています。（なお、同サイトで検索すると、この今年1月19日の記事が最新のようにです。）

「ウクライナの平和主義者運動シェリアジェンコとのインタビュー」

<https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2023-06-05> （右の QR コード）



（元記事：<https://www.counterpunch.org/2023/01/19/ukrainian-pacifist-movement-an-interview-with-yurii-sheliazhenko/>） （右の QR コード）



かなり長いので、最後の方のごく一部を引用して紹介します。

**Q.** 戦争が答えでないなら、ロシアの侵略に対する答えは何なのか？ウクライナの人々は、侵略が始まったら、それに抵抗するために何が出来たでしょうか？

**A.** インドやオランダの非暴力抵抗が示したように、国民が占領軍に非協力を示すことで、占領を無意味で重荷なものにすることができる。ジーン・シャープなどが述べている非暴力抵抗の効果的な方法はたくさんある。しかし、この質問は、私の考えでは、主要な質問の一部に過ぎません。それは、戦争における一方の側だけでなく、架空の「敵」でもなく、戦争システム全体にどのように抵抗するかということです（敵の悪魔的なイメージはすべて偽りで非現実的だからです）。この問いに対する答えは、人々が平和を学び、実践し、平和の文化を発展させ、戦争や軍国主義について批判的に考え、ミンスク協定のような合意された平和の基礎にこだわり続ける必要があるということです。

引用部分の冒頭にある、非暴力による国家防衛の方法は「代替防衛」とも呼ばれ、最近では E. チェノウェスの「市民的抵抗」の4章で触れられており、少し前では M. ランドルの「市民的抵抗」第5章「代替防衛とは何か」（新教出版、2003年）に詳しいです。前者は私のブログに引用しています：<https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2023-06-02#c4p287>

（右の QR コード）



# ウクライナの平和主義者運動： ユリイ・シェリアジェンコに聞く

BY MARCY WINOGRAD (2023年1月19日)

米国に拠点を置く Peace in Ukraine Coalition の議長である CODEPINK の Marcy Winograd (マーシー・ウィノグラード) は、ウクライナ平和主義者運動事務局長の Yurii Sheliashenko (ユリイ・シェリアジェンコ) に、ウクライナでの戦争とロシアの侵攻に対する軍事動員についてインタビューしました。ユリイはキエフに住んでいるが、日常的な電力不足に直面し、毎日空襲のサイレンが鳴り響き、人々は地下鉄の駅に避難している。

平和主義者のレオ・トルストイ、マーティン・ルーサー・キング、マハトマ・ガンジー、そしてインドやオランダの非暴力抵抗に影響を受けたユリイは、米国と NATO のウクライナへの武器供与を中止するよう求めています。ウクライナの武装は過去の和平合意を損ない、現在の危機を終わらせるための交渉を阻害したと彼は言う。

ウクライナ平和主義運動は、10人のメンバーを中心に、人権の保護、特に良心的兵役拒否権を提唱し、ウクライナ戦争とすべての戦争に反対しています。

**Q** ユリイさん、ウクライナの平和主義や反戦運動について教えてください。どれくらいの人に関わっているのでしょうか？他のヨーロッパやロシアの反戦組織と連携しているのでしょうか？ウクライナの戦争を終わらせるために、どのような行動をとってきたか、あるいはとることができるか？反応はどうでしたか？

ウクライナの市民社会は成長・繁栄しているが、政治的には主戦論者の主流に毒されている。堂々とした軍国主義がメディア、教育、すべての公共圏を支配している。平和文化は弱く、断片的です。それでも、非暴力的な戦争抵抗の組織的・自発的な形態は数多くあり、そのほとんどは戦争努力に同調しているよう見せかけている。このような従来の偽善がなければ、支配的エリートが "勝利による平和" という痛ましいほど野心的な目的への同意を

作り出すことは不可能である。例えば、同一人が、相容れない人道的価値観と軍国主義的価値観へのコミットメントを表明することもできる。

何世紀にもわたって多くの家族が行ってきたように、人々は賄賂を支払ったり、転居したり、その他の抜け道や免除を見つけたりして強制兵役を回避するが、同時に声を大にして軍隊を支持し、寄付をする。政治的忠誠を声高に主張することは、どんな都合の良い口実でも暴力的な政策に受動的に抵抗することと重なる。ウクライナの占領地でも同じことが行われており、ついでに言えば、ロシアとベラルーシでも同じ方法で戦争抵抗が行われていることがほとんどである。

私たちの組織、ウクライナ平和主義運動は、この大きな社会的傾向を代表する小さなグループですが、一貫した、賢明でオープンな平和主義者であるよう決意しています。中核となる活動家は10人近く、Google グループには50人近くが正式に入会申請して追加され、Telegram グループにはその3倍近い人々が参加しており、Facebook で私たちに「いいね！」やフォローをしてくれた数千人のオーディエンスがいる。私たちのウェブサイトにもあるように、私たちの活動は、殺人を拒否する人間の権利を守り、ウクライナでの戦争や世界のすべての戦争を止め、平和を築くことを目的としており、特に教育、人権の擁護、特に良心的兵役拒否の権利を通じて、そのことをめざしています。

私たちは、いくつかの国際的なネットワークのメンバーです：良心的兵役拒否のためのヨーロッパ事務局、ワールド・ビヨンド・ウォー、戦争抵抗者インターナショナル、国際平和ビューロー、シテイズンシップ教育のための東欧ネットワークなどです。これらのネットワークでは、ロシアやベラルーシの平和活動家と協力し、経験を共有し、クリスマス平和アピールや迫害されている戦争抵抗者の亡命を求める #ObjectWar キャンペーンなどのキャンペーンで一緒に行動しています。

ウクライナでの戦争を終わらせるために、私たちは声を上げ、ウクライナ当局に手紙を書きますが、私たちの呼びかけはほとんど無視されるか、軽蔑的に扱われる。2ヶ月前、ウクライナ議会の人権委員会事務局の職員は、平和への人権と良心的兵役拒否に関する私たちの訴えを考慮するのではなく、不条理な非難を付け加えて、それをウクライナの保安庁に送りました。私たちは苦情を訴えたが、結果は得られなかった。

**Q** 徴兵制からどう逃れられたのですか？ウクライナで徴兵に抵抗する男性はどうなるのでしょうか。

私は兵役登録を避け、学業を理由に免除される保険をかけました。学生であった後、講師、研究者となり、現在は学生でありながら、ミュンスター大学で2度目の博士課程に進むため、ウクライナを離れることができないのです。私が言ったように、多くの人が大砲の餌になるのを避けるために、多かれ少なかれ合法的な方法を探し、見つけています。軍国主義が定着しているため、それは汚名を着せられますが、それは深い過去からの大衆文化の一部です。

戒厳令下では良心的兵役拒否は認められず、国連人権委員会が何度もウクライナに勧告した内容そのものであるにもかかわらず、私たちの訴えは無駄に終わっています。平時でさえ、戦争や軍国主義に公然と抵抗しない、ごく一部の特権的な信条の正式なメンバーにのみ、懲罰的で差別的な性格の代替勤務を認めることができました。

兵士はまた、良心的兵役拒否を理由に除隊することも許されない。私たちのメンバーの一人は現在最前線で勤務していますが、彼は自分の意思に反して路上で徴兵され、寒い兵舎で肺炎を患い、司令官は確実に死ぬ塹壕に送ろうとしましたが、彼は歩くことさえできず、数日間苦しんだ後病院に搬送され、2週間の治療の後、兵站小隊に配属して免除されました。彼は殺人を拒否しているが、宣誓を拒否すれば刑務所に入ると脅され、妻と9歳の娘に会うために刑務所に行かないことを決めた。しかし、そのような機会を与えるという指揮官の約束は、空虚な言葉にしか見えなかった。

動員による徴兵忌避は、3年から5年の懲役刑

に処される犯罪だが、ほとんどの場合、投獄は保護観察に置き換えられ、月に2回保護観察官に会い、居住地や仕事場のチェック、心理テスト、矯正を受けなければならないことになっている。私の知っている執行猶予中の自己申告の平和主義者は、電話が傍受されることを恐れたのか、私が電話すると戦争支持者のふりをした。ヴィタリイ・アレクセイエンコのように法廷での懺悔を拒んだり、麻薬で捕まったり、別の犯罪を犯したり、保護観察所の誰かがあなたとの会話やコンピューターによる性格分析・テストの結果、犯罪を犯す恐れがあると判断すれば、執行猶予ではなく本当の実刑になる可能性があります。

**Q** キエフでは、あなたや他の人たちの日常生活はどのようなものですか？人々は通常通り生活し、働いているのでしょうか。人々は防空壕に身を寄せているのでしょうか？氷点下の気温の中、電力や電気は供給されているのでしょうか？

一部の休日を除いて毎日電力不足があり、まれに水や暖房に問題があります。私のキッチンのガスについては、少なくとも今のところ問題はありません。友人の助けを借りて、平和活動を続けるためにパワーステーション、パワーバンク、ガジェット、大容量バッテリーのノートPCを購入しました。また、各種ライトや、暖房がないときや足りないときに部屋を暖めることができる、パワーステーションから数時間使える低電力電気ストーブも持っています。

また、会社やお店が閉まって、多くの人が地下鉄の駅や地下駐車場などの避難所に行くときには、定期的に空襲警報のサイレンが鳴ります。最近一度、昨年春にロシア軍がキエフを包囲した時の砲撃の時のように、爆発音が大きく、怖かったことがあります。ロシア軍のロケットで近くのホテルが爆破されたとき、ロシア人が欧米の軍事顧問を駆除したと主張し、わが国政府がジャーナリストが殺されたと言ったときです。人々は数日間歩き回ることができず、地下鉄のパレス・ウクライナ駅に行くにはそこに行かなければならないので、居心地が悪かった。

**Q** ゼレンスキーは戦時下、戒厳令を布告した。これは、あなたやウクライナの人々にとってどのような意味を持つのでしょうか？

まず、雇用、教育、住居、宿泊に必要な軍登録の強制強化、街頭での募集センターへの出頭命令の伝達、若者の選択的逮捕と意に反したセンターへの移送、18歳から60歳までのほぼすべての男性の海外渡航禁止など、軍事動員の強制である。ヨーロッパの大学に通うウクライナ人学生がシェヒニ検問所で抗議し、国境警備隊に殴られた。

戦乱のウクライナから脱出しようと、命がけて大変な苦勞をする人たちがいます。何十人もの難民がティッサ川の冷たい水に溺れ、カルパティア山脈で凍死しています。私たちのメンバーで、ソ連時代の反体制派、良心的兵役拒否者、プロの水泳選手であるオレグ・ソフィアニクは、これらの死とウクライナの国境に新しい鉄のカーテンを設置したことについてゼレンスキー大統領を非難し、良心の自由を軽視した強制的動員という権威主義政策は現代の軍国主義の農奴を生み出すという彼の意見に全く同意しています。

ウクライナの国境警備隊は、ウクライナを出ようとした8000人以上の男性を捕まえ、徴用センターに送り込んだ。いわゆる募集と社会的支援のための領土センターは、短く言えば募集センターであり、ウクライナの旧ソ連の軍事委員会の新しい名前である。強制的な軍登録、兵役の適性を確認するための健康診断、徴兵、動員、予備役の訓練集会、学校やメディアでの兵役義務の宣伝など、そういったことを担当する軍の部隊である。文書による命令や自発的にそこに来ている場合、通常、許可なく離れることはできない。自分の意思に反して軍隊に連れて行かれる人も多い。

彼らは、近隣のヨーロッパ諸国の国境警備隊と協力して、逃亡者を捕まえています。最近では、6人がルーマニアに逃げ、2人が途中で凍死し、4人が現地で捕まるという全く悲惨な事態がありました。ウクライナのメディアは、この人たちを「脱走兵」「徴兵逃れの男」と矛盾した表現をしている。彼らは亡命を求め、難民キャンプに収容された。彼らがウクライナの戦争マシンに引き渡されないことを祈ります。

**Q** 議会の過半数が、ウクライナに数百億ドルの兵器を送ることに賛成した。彼らは、米国がロシアの攻撃に対して無防備なウクライナを放置してはいけないと主張している。あなたの反応は？

この公的資金は、アメリカ国民の福祉を犠牲にした地政学的覇権主義と戦争利得のために浪費されている。いわゆる「防衛」論は、企業メディアにおける近視眼的で感情的に操作された戦争報道を利用している。2014年からの紛争エスカレーションの力学は、長期的な視点に立った米国の兵器供給が、戦争の終結ではなく、戦争の永続化とエスカレートに寄与していることを示している。特に、ウクライナがミンスク合意などの交渉による解決を模索し遵守することを阻害しているからである。

このような議会投票は初めてではなく、ウクライナがロシアとの和平に向けた一步を少しでも踏み出す用意があることを示唆すると、その都度、武器供給が増額された。米国のウクライナ政策を長年リードしてきたシンクタンク、アトランティック・カウンシルが発表したウクライナ勝利のためのいわゆる長期戦略は、ロシアの停戦提案を拒否し、米国とイスラエルのモデルでウクライナを軍事的に支援することを示唆している。それは東ヨーロッパを長年にわたって中東に変え、ロシアの力を弱めることを意味するが、ロシアと中国の経済協力を考えるとそうしたくないようである。

NATOの元高官たちは、核のエスカレーションを恐れずにウクライナ戦争に直接参加することを呼びかけ、外交官たちは大西洋評議会のイベントでウクライナの完全勝利のために何年も戦争することを呼びかけている。この種の専門家は、ゼレンスキー大統領府が、ウクライナ国民を総動員してロシアに対抗する防衛戦争のために、数十年にわたる西側の武器供給を想定した、いわゆるキエフ安全保障協定を作成するのに貢献しました。ゼレンスキーはG20サミットで、この永久戦争計画をウクライナの中核的安全保障として、いわゆる平和協定で宣伝し、その後、対ロシア聖戦のために他国を勧誘するためのいわゆる平和サミットを発表しました。

ウクライナ戦争ほどマスコミに取り上げられ、

米国がコミットメントした戦争は他にない。世界には現在進行中の戦争が数十件あり、その原因は、ほとんどすべての場所で、古風な経済・政治機構が持つ癌のような戦争中毒にあると私は考えている。軍産複合体はこうした戦争を必要とし、メディアを通じて偽の悪魔のような敵のイメージを作り出すなど、密かに戦争を誘発する権利があるのです。しかし、こうした温情主義的なメディアでさえ、軍国主義的な国境に対する不合理な崇拜や、血によって「神聖な」国境を引くという全異教的な考え方に説得力のある説明を与えることはできない。軍国主義者は、平和の問題に対する国民の無知、主権などという古臭い概念に対する教育や批判的思考の欠如に賭けているだけだ。

ウクライナで古い殺傷用具を使い、ロシアへの恐怖が増大したため、米国や他の NATO 加盟国は、核兵器を含む新しい殺傷用具を買うように迫られている。平和文化や戦争廃止への進歩的な希望は、あなたがおっしゃるような予算決定によってもたらされる「戦争を通じて平和を」「勝利の後に交渉する」という考え方によって損なわれています。つまり、それは今日の福祉資金の略奪であるだけでなく、次の世代の幸福を奪うものでもあるのです。

暴力によらない生き方、統治、不正への抵抗の仕方を理解する知識と勇気が人々に欠けているとき、福祉とより良い未来への希望は戦争のモロク (moloch) の犠牲にされる。この傾向を変えるには、平和メディアと平和教育、すべての交戦国の民間人が安全にアクセスできる特別なプラットフォームでの公的な平和構築対話、意思決定と学術のプラットフォーム、軍国主義の支配から構造的に守られ経済プレーヤーにとって魅力的なあらゆる種類の平和市場など、平和と非暴力の生き方に関する革新的エコシステムを開発しなければならない。

平和を愛する人々は自らを組織化し、戦争利権者とその政治的下僕に、通常通りのビジネスは許されない、まともな人間は誰も、有給・無給、自発的・強制的な労働によって戦争のシステムを維持しようと思わない、というシグナルを送らなければならない。大きなシステム上の変化を追求しなければ、現在の持続的な戦争体制に挑戦すること

は不可能であろう。私たち平和を愛する世界の人々は、軍国主義的な統治と戦争による利益供与という長期的な戦略に直面して、平和への普遍的な移行という長期的かつ機知に富んだ戦略で対応しなければなりません。

**Q 戦争が答えでないなら、ロシアの侵略に対する答えは何なのか？ウクライナの人々は、侵略が始まったら、それに抵抗するために何が出来ただろうか？**

インドやオランダの非暴力抵抗が示したように、国民が占領軍に非協力を示すことで、占領を無意味で重荷なものにすることができる。ジーン・シャープなどが述べている非暴力抵抗の効果的な方法はたくさんある。しかし、この質問は、私の考えでは、主要な質問の一部に過ぎません。それは、戦争における一方の側だけでなく、架空の「敵」でもなく、戦争システム全体にどのように抵抗するかということです (敵の悪魔的なイメージはすべて偽りで非現実的だからです)。この問いに対する答えは、人々が平和を学び、実践し、平和の文化を発展させ、戦争や軍国主義について批判的に考え、ミンスク協定のような合意された平和の基礎に固執する必要があるということです。

**Q アメリカの反戦活動家は、あなたやウクライナの反戦活動家をどのようにサポートすればよいのでしょうか？**

ウクライナの平和運動が展開されるには、より実践的な知識、情報、物的資源、そして社会の目から見た正当性が必要です。私たちの軍国文化は西側に傾いていますが、民主的価値の基礎にある平和文化を軽蔑して無視しています。

そこで、米国や NATO 諸国の官民によるウクライナ支援の決定やプロジェクトにおいて、ウクライナにおける平和文化の推進と平和教育の発展、良心的兵役拒否の人権の完全保護を主張することができれば、素晴らしいことです。

ウクライナの市民への人道支援 (もちろん、軍隊の獣を養うのではない) と平和運動の能力向上を両立させ、「血を流すか平和を語るかはウクライナ人が決めること」といった無責任な考えを払拭

することが極めて重要である。世界平和運動の集合知と計画、道徳的・物質的な支援がなければ、誤った判断がなされることは間違いないでしょう。私たちの友人であるイタリアの平和活動家たちは、平和を推進するイベントを開催し、人道支援物資を携えてウクライナにやってきた。

平和活動家に対する弾圧、資産家の逮捕、軍国主義者や右翼の侵入など、起こりうるリスクに特に注意を払いながら、世界平和運動の長期戦略の一環として、ウクライナの平和運動に対する長期支援計画を策定すべきである。ウクライナの非営利セクターは戦争のために働くことが期待されており、国家機関によって煩わしく管理されている。また、必要な活動を組織し、必要な手続きを順守して管理できる有能で健全な人材がまだ十分ではない。おそらく、現在可能な活動のうち限られた範囲は、民間レベルでの交流や小規模な形式的営利活動で行う必要があるが、平和運動の能力開発という最終目標を確実にするために必要な透明性と説明責任がある。

今のところ、ウクライナに直接寄付をするための法人はありませんが、私が講演やコンサルティングを提案し、その対価として誰でも任意の料金を支払うことができ、私はそれを平和運動の能力開発に使うことができます。将来、この運動に信頼できる有能な人材が増えたら、銀行口座を持つ法人を設立し、給与所得者とボランティアからなるチームを作り、スケッチではすでに夢想しているが、まず成長する必要があるため当面は不可能ないくつかの野心的プロジェクトに対して本格的な

資金提供を求めるつもりである。

ヨーロッパには、**Connection e.V.**、**Movimento Nonviolento**、**Un Ponte Per** など、すでにウクライナの平和運動を支援している団体もあり、ウクライナの平和志向の法人がない場合は、彼らに寄付することも可能です。特に重要なのは、ウクライナ、ロシア、ベラルーシの良心的兵役拒否者や脱走兵がドイツや他の国に亡命するのを支援する **Connection e.V.** の活動である。

実際、ウクライナから脱出できたウクライナの平和活動家を海外で助けることもあります。この文脈で、私の友人であるルスラン・コツァバは、軍事動員をボイコットするよう呼びかけた **YouTube** のブログのために 1 年半投獄され、無罪となった後、右翼の圧力で再び裁判にかけられた良心囚ですが、現在ニューヨークで米国への亡命を求めていることをお伝えしておきます。新天地での生活を始めるために英語力の向上が必要であり、米国での平和運動のイベントに参加することを熱望している。

-----

マーシー・ウィノグラードはカリフォルニア州出身で、公立学校の退職教員であり、作家である。彼女は **CODEPINK Congress** と **Peace in Ukraine Coalition** のコーディネーターを務めており、戦争を終わらせるために 9 月 12 日から 15 日までの 1 週間の行動を計画している。

(**COUNTER PUNCH 2023/1/19** より豊島耕一が翻訳)